

静岡県の外来生物

ナルトサワギク

湯浅保雄

11月22日に理事長の天岸先生から、静大構内で見かけたのだが、この植物は何だろうかと2枚の写真がメールで送られてきました。花や葉の特徴からキク科のナルトサワギクと判断して返信しましたが、とうとうここにも来たかという感じです。

ナルトサワギク *Senecio madagascariensis* Poir. はマダガスカル原産の帰化植物です。アフリカ、オーストラリア、北アメリカなどにも帰化しているそうです。

日本では1976年に徳島県鳴門市の埋め立て地で初めて見付き、サワギクに葉が似ていることから鳴門沢菊と名づけられました。生育環境はサワギクの名がついていても湿潤地を好むものではなく、温暖な地域によく日の当たる乾燥気味の所に多いようです。

多年生の草本植物で、茎は基部で多数に分枝して大きな株となり、草丈は30-70cmになります。葉は、ふつう長さ3-9cm、幅1-1.5cmほどの細長い形をしています。直径2cmほどの黄色の可愛い花が一年中咲いています。植物体には他の植物の生長を抑えるアレロパシー成分があります。さらに、アルカロイドの一種であるセネシオニンやセネシオフィリンなども含み、草食動物が食べると死ぬことがあります。

国内での分布域は今のところ本州（おもに関東以西）と四国・九州ですが、静岡県にいつごろ侵入したかは定かではありません。私の手元には1993年に舞阪町長十新田の海辺で採集した標本があります。したがって、それ以前から生育していたことは確かです。

2009年に県が行った調査では、焼津市と藤枝市、そして浜松市の一部で確認されているに過ぎません。それが、2013年には静岡市の牛妻の林道端や国道一号線近くの安倍川の土手、丸子の採石場でも確認されました。急激に生育範囲を広げているようですが、これは静岡市内だけのことでしょうか。

この植物は繁殖力が強く、他の植物の生育



静大構内で見つけたナルトサワギク。天岸理事長撮影

を阻害し生態系に悪影響を与えますので、2006年に環境省の「外来生物法（略称）」によって特定外来生物に指定されました。したがって、栽培、販売、譲渡、移動等が原則禁止されています。

多年草ですから根を残すと容易に再生します。駆除するにはシヨベル等で根ごと掘取り、ポリ袋に入れてゴミとして出して焼却してもらうことが最適な方法です。また、一年中開花結実しますので、見つけたら出来るだけ早く駆除することをおすすめします。